

日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 畑中 久明 発行所 日本高齢期運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンポール中野 504 号
TEL/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com
<http://www.nihonkouren.jp>

No.366
発行 2024 年 12 月 10 日

第37回日本高齢者大会 in あいち 全国から学び、集う 3100名超 活気に満ちた大会に！！



11月22日・23日、愛知県名古屋国際会議場で行われた第37回日本高齢者大会 in あいちには、オンライン参加も含めて延べ3100以上が参加し成功させました。1日目は6講座・10分科会・3移動分科会・2つの夜の交流会

で、学び、活動を交流しました。2日目全体会は地元愛知県の高六太鼓の若々しい躍動のあと、愛知県の皆さんを中心に300人の迫力ある大合唱で始まりました。被団協の金本弘さんに来賓挨拶をしていただき、ノーベル平和賞受賞を参加者ととともに喜び合いました。NPO 法人日本障害者協議会代表の藤井克徳さんの記念講演はご自身の体験をもとづく力強いお話に「とても分かりやすく感動した」「新しい学びができた」など多くの皆さんより感想が寄せられています。そして、12人の各分野の力強いたたかひの報告（1分スピーチ）もすばらしいものでした。大会参加者からは「今年の大会もすばらしかった。参加してよかった」との声が寄せられました。2025年は「戦後80年」、中央団体と東京・埼玉・千葉・神奈川の1都3県の高齢期連絡会の共同開催で、埼玉県

大宮ソニックシティを会場に行います。今年の大会の学びと交流を各地域で活かし、来年も元気よく大会で集いましょう。



第10分科会「交通・高齢者の移動手段の確保」



第4学習講座「国によりすすめられる沖縄の軍事基地化と愛知県内の軍需産業の実態」



第2学習講座「日本高齢者人権宣言が輝く明日の社会を展望しよう」

第6学習講座

「医療費患者自己負担を減らしてゼロへ～沢内村から学んで実現する～」にとりくんで

日本高連 代表委員 吉岡尚志

高齢者大会の第6講座「窓口自己負担ゼロをめざして」を企画・運営しました。昨年につき、開催しましたが、今年は参加者が増えました。自己負担ゼロを提起するのは、無理な話、時期はすれていように思われがちですが、国民の収入が伸びず、医療費や介護保険などの社会保障関連支出が激増するいま、「自己負担ゼロ」のとりくみの意義を強く感じました。

日本で老人医療費を無料化したのは岩手県沢内村でした。1957年村長になった深澤さんは老人が医療にもかかれず死んでいくことに心を痛め、たとえ国や県が反対し、国民健康保険法に反しようとも、老人医療費を無料にする。憲法には反しない。国が反対するなら最高裁まで争う」と勇気をもって実現しました。1960年のことです。それから65年経ちます。1981年、土光臨調が社会保障を削れという答申を出し、1983年には老人医療は有料化され、1984年には健保本人の外来も有料化されました。40年以上も財政負担を理由に社会保障は削られまくり、消費税が導入・引き上げられまし

たが、国民の負担は増える一方です。それなのに先進国で唯一、賃金も年金も上がらず、国際競争力もデジタルもどんどん落ちていきます。労働者にはまともな賃金は支払わず、雇用に責任を持たず、まともな設備投資も行わず、社会保障への負担増には背を向けてきました。それなのに大企業の経営者は大きな報酬を得、株主は大きな配当を得て、内部留保は530兆円を超えています。歪み切った日本のあり方に国民は「ノー」を突き付けつつあります。私たちは「日本高齢者人権宣言」を定め、国民は選挙で自公政権を半数割れに追い込んでいます。そして世界にこんなひどい制度や行政があるのかと国民を驚かせたマイナ保険証の強行、健康保険証の廃止。次々にトラブルやボロが出て、崩壊寸前ですが、税金を湯水のようにつぎ込み、財界の要求に応じて強行を凶っています。

わたしたちの先輩は、朝日訴訟、小児マヒワクチン、老人医療費無料制度の実現、公害反対などの運動にとりくみ、いのちとくらしと人権を守ってきました。運動の価値とやり方を知っている私たちが声を大きくし、若者や現役と手をつなぎ、励ましあいながら社会と社会保障をよくする運動に取り組まなければならないでしょう。

「第37回日本高齢者大会inあいち」を終えて

2024年12月 年金者組合愛知県本部

3000人を超す参加で成功裏に終了 年金者組合は延べ944人が参加

11月22日、23日に名古屋国際会議場で開催された「第37回日本高齢者大会inあいち」への参加者組織、大会運営への協力など年金者組合あげての奮闘、ほんとうにお疲れさまでした。

1日目の講座・分科会企画延べ参加1375人（夜の交流会含む）、2日目の全体会は1323人、両日のWeb参加を含めると延べ約3100人を超す参加で成功裏に終わることができました。年金者組合は54支部（全58支部）から1日目388人、2日目556人、延べ944人の参加者を組織しました。愛知の参加者の75%にのぼり現地で開催する大会を成功させる原動力となりました。大会を下支えした2日間の要員は現地で150人、年金者組合は名古屋市内支部を中心に85人が参加しました。

参加型を実現した300人大合唱団

1日600人、2日で1200人の参加目標に対して944人、ことに全体会は556人の参加者を組織できた大きな要因として、300人の大合唱団の呼びかけがあります。当日はほぼ目標通りの大合唱団が組織され、舞台上で歌った人たちも全国の参加者にも心に残る感動的な舞台となりました。

また補聴器助成分科会、有松と熱田の移動分科会では年金者組合が企画・運営を担い準備を進めてきました。文化活動や短歌の分科会でも参加型で多くの仲間が積極的な役割を果たしました。

4月から8カ月をかけて準備、参加のよびかけ

年金者組合は、コロナ禍を経て20数年ぶりに愛知で開催される大会を積極的な参加で成功させることを確認し、4月から組織内実行委員会を立ち上げました。後半は支部代表者会議の中で参加者の組織を中心に方針提起をおこないました。

- ① 大会の開催は高齢者が抱える様々な問題、平和、防災などについて全国から講師が集まり、学ぶことができるチャンス。地元開催を生かしてできるだけ多くの組合員に参加を呼びかけよう
- ② 年金者組合を広く知らせ、仲間を増やす良い機会と位置づけ、楽しく元気に集会をアピールしていこう

③ 地域の新婦人や民主団体等にも積極的に声をかけ、大会終了後も地域の要求実現の共同を広げていこう

この方針を受けて、ほぼすべての支部で大会を知らせ、参加を呼びかける取り組みが進みました。「300 人の大合唱に参加したいと年金者組合に加入」などうれしい報告もありました。また参加のハードルを下げるために、カンパや物資販売等で参加費を補助するなど各支部の努力も多くみられました。

大会のとりくみと学びを運動に活かそう

944 人の参加と貴重な経験を年金者組合の今後の運動に活かしていきましょう。

- ① 大会参加で終わりにせず、参加した分科会、全体会の感想や報告を出し合う機会を支部やブロックでつくりましょう。
- ② 大会に参加できなかった人たちを含めて経験を伝え、支部の運動の活性化につなげましょう。
- ③ 高齢者の人権と人間らしい暮らしを守る地域の運動につなげていきましょう。

2025年「戦後80年」に開催する第38回日本高齢者大会を全国の力で成功させよう



1日目 11月11日（火）午後 講座・分科会

2日目 11月12日（水）午前 全体会

会場 大宮ソニックシティ(JR大宮駅より徒歩3分)